

# 製本のススメ

Vol. 15

街に草花が芽吹き 色鮮やかな季節になりましたね。しかし三寒四温の毎日で暑いのか寒いのかよくわからず、体調を崩しがちな季節でもあります。銭は無くとも元気が一番！連休を寝込まない為にも、シッカリ栄養取りましょう。

今回は**筋入れとミシン**のお話

厚みのある用紙には、折りやすいように【筋】を入れることがあります。さてこの筋ですが、凸凹のどちらが表なのかわかりますか？実は筋には表も裏も無いのです。板紙やカード紙の様に手折では難しい**厚みのある物は凹が表**簡単に手折できる**薄い物は凸が表**と厚みによって凸と凹を使い分けているのでどちらでも良い場合には「筋山をどっちにしましょうか？」と聞いたりします。冊子の表紙に用いる場合には、見栄えもあるので、**表には凹を使う場合が多い**のですが、カード等の場合には、どちらが凸でも構いません。

また パンフレット等で「背割れ防止」用に筋を入れることがありますが正直なところ、筋が入っても機械で折れば結果は同じなので、濃い色合いのベタがある場合には、やはり**紙目と連量はかなり重要**です。

さて最近では**折筋の代わりに切り取りミシンを入れる**ことも多くなりました。これは切り取る事が目的でなく、折ることを目的としています。

**折り角がシャープに**できるので、繊細な加工の物に向いています。CDケースに入っているカードなどがその例ですが時々「ミシンが切りにくい」と言われる事があります（当たり前です）切れすぎないようにミシンを入れているので切り取りが目的の時には、その旨を伝えておかないといけません。



## Tea break

お酒やビールなどの缶には容量がリットルやミリリットルで表示されていますが、缶コーヒーやお茶はグラム表示。同じ飲料なのに何故でしょうか？飲料メーカーの話では、グラム表示されている缶入り飲料類は約90度近い高温で缶に詰められるそうです。すると熱で中身が膨張してしまうので、容量は冷めたときよりも大きくなります。その点 重量は熱で変化しない為重さで表示されているそうです。対して炭酸飲料や、お酒などは10度以下で缶詰にされるため、容量の変化が無くリットルなどの表示になるそうです。両者の違いは、製造過程の違いなのですね。

by (株) 井関製本